脳・神経センター・リハビリテーションセンター

長崎北病院 伝言板 10月号

令和7年10月1日発行

10月。綺麗に刈り込まれた田んぼの畦道に彼岸花が群れをなして姿を見せています。夏の終わり、秋の初めを告げる花。秋の彼岸頃に開花することから来ている名前ですが、毒があるので食べると「彼岸＝あの世」にいくという由来もあるそうです。別名「曼珠沙華：まんじゅしゃげ」。サンスクリット語のmanjusaka。「 天上に咲く赤い花」という意味だそうです。毒はあれど 紺碧の空、緑の畔、黄金の稲の間に群れ咲く燃える赤。季節の花です。



星 降 る 宿 ☆☆

「曼珠沙華一むら燃えて秋陽つよしそこ過ぎているしずかなる径」。この句が浮かぶ季節。 斜めに差し込む日差しはまだ強烈ですが、朝夕は涼しい。刈り込まれた畦道。空の青に映え、燃える赤の曼珠沙華がすっくと立ち上がります。毒があるからか、不吉な花、葬式花と呼ばれます。しかし、何もない地面から天を目指して伸びる赤。綺麗です。逆に、毒が役に立つこともあります。田の畦や堤防に小穴が開くと、そこから穴が大きくなって決壊します。いわゆる「蟻(あり)の一穴（小さな不注意や不具合が重大な結果を招くこと）」。畦や堤防にアナを開けるのは、「モグラ」。ミミズを求めてトンネルを掘り、それが水漏れを起こします。 彼岸花を植えておくと 毒のために「モグラ」が寄りつきません。堤防や畦に彼岸花が列をなして咲くのは、その目的で植えられた結果でしょう。不吉どころか役立っているのです。



最近 「dx」という言葉を時々聞きます。「病院dx」などと言われています。dxは「Digital transformationの略。（英語圏ではtransを x で表現する慣習があるので dx と略されます）。

日本語ではデジタル技術による、生活やビジネスの変化となります。病院では、電子カルテの共通化、オンライン診療、AI診断支援システム、マイナンバーカードの活用、Web予約などがあるようです。目的は医療従事者の負担軽減と医療の質の向上だそうです。今後も人手不足は続きますのでデジタル化での省力化、効率化は必須です。dx推進は結果的には社会や患者さんのためにも有用とは思います。しかし、短期的には目的の9割は病院（企業）のため、自分たちのためのdxであり効率化です。患者さんや弱者の利便性はあまり考えらえていないように思います。
今、目の前で本当に患者さんのためになっているか考える必要があります。例えば、受診やワクチン接種の予約をスマホなどで行うシステムがあります。若者や使いこなしている方には便利。しかし、当院の患者さんはスムーズにできる人ばかりではない。「出来ない人は申し出てください」と掲示してあっても不親切。「窓口や外来で受け付けます。できる人はWeb予約しても結構ですよ」が基本。自分たちの目線ではなく、患者さんの目線に立って、丁寧に。 先日 数日間 旅行してきました。ある日の宿は1350m 山の上。売りは「星降る宿」。要するに何もない、真っ暗。だから星がよく見える。夜空、星だけ。もし、くもりや雨なら何も見えない。それでも予約がとれない。周囲のキャンプ場も若者などでいっぱい。唯一無二。 誇れるもの、特徴が有れば人は集まる。 宿は、新しければ勿論綺麗。しかし、古くても隅々まできれいに掃除されている、金属類がピカピカ、水回りがきれい。それだけで「この宿はいい」と思います。そして人。接客。ある宿で、駐車場で荷物を出しているとそばに人がそっと立っている。 静かに案内してくれる。出立の朝。遠くで お辞儀をして送り出してくれる人がいる。言葉はなくとも、心は暖かくなる。また来よう。病院の基本も人。もちろん診療の質は当然。しかし、心遣い・気遣い、想像力も含めて病院の総合力です。 Digital（デジタル）の反対語はphysical(フィジカル：実態のあるもの）だそうです。デジタルの世界でフィジカルな仕事をしましょう。（A.S.）

